

## 強皮症（全身性硬化症）を合併した バセドウ病の1例

こ とう あや の つ かず み  
後 藤 彩 野 津 和 巳

キーワード：強皮症（全身性硬化症），バセドウ病，抗血小板薬

### 要 旨

バセドウ病に，強皮症（全身性硬化症）を合併した症例を経験した。症例は33歳，女性。バセドウ病の経過観察中，徐々に手指のしびれ感，レイノー現象が出現した。手指の皮膚硬化所見を伴い，抗トポイソメラーゼ I 抗体陽性を認めた。強皮症（全身性硬化症）と診断した。まれな症例であり報告する。

### はじめに

バセドウ病などの自己免疫性甲状腺疾患では，他の各種自己免疫疾患を合併することがある。特に関節リウマチや1型糖尿病などの合併例が比較的多く報告されている。しかしながら，強皮症（全身性硬化症）合併の報告例は極めてまれである。今回，抗トポイソメラーゼ I 抗体（抗 Sc1-70 抗体）陽性の強皮症（全身性硬化症）を合併した症例を経験した。

### 症 例 提 示

症例は33歳，女性。主訴は手指のしびれ感。母親にバセドウ病あり。既往歴に特記すべきものはない。現病歴は，1998年頃からバセドウ病に伴う

甲状腺機能亢進症と診断され，抗甲状腺剤の内服を開始した。その後，バセドウ病は寛解状態となり，抗甲状腺剤は中止となったが，2007年12月頃から徐々に手指のしびれ感が出現した。レイノー現象にも気づき，精査加療を希望して当クリニックを受診した。

当クリニック受診時（2007年12月）の現症は，身長 153 cm，体重 46.2 kg，BMI は 19.7 kg/m<sup>2</sup>であった。血圧は 85/56 mmHg，脈拍81/分で整であった。貧血，黄疸は認めなかった。咽頭発赤なし。甲状腺はび慢性腫大を認め，七条分類のⅢ度であった。弾性は軟で，圧痛はなかった。振戦なし。手指は硬化し，強皮症様変化を認めた。肺野ラ音なし，心雑音聴取せず。下肢浮腫なし。

一般検査成績では，末梢血で，白血球数4200/ $\mu$ l，赤血球数394万/ $\mu$ l，血色素濃度 12.8 g/dl，ヘマトクリット37.7%で貧血は認めなかった。また，血小板数も20.6万/ $\mu$ l で正常であった。生化学

Aya GOTO et al.

大学前のつ内科クリニック

連絡先：〒690-0825 松江市学園2丁目27-17